

多文化共生事業事例集

年度

R2

団体名

松戸市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

G

事業費総額 698千円

意識啓発・地域づくり

事業名

在住外国人によるコミュニティ形成の準備会

概要

外国人が地域コミュニティの担い手となることを目指し、市民活動を支援する講座を開催する。

事業のポイント

- ・市民活動を行いたい外国人を対象に、コミュニティ形成を支援する講座を開催した。
- ・自己分析のワークショップや先進事例の紹介を交えることで、参加者の市民活動意識を醸成した。
- ・行動計画（行いたい市民活動や形成したいコミュニティ）について発表する場を創出し、実現に向けて後押しした。
- ・市民活動団体の関係者との交流会を実施し、協働や活動の発展につなげた。

事業の背景

- ・市内在住外国人が増加している。
- ・就労や留学等、長期滞在者が多く、市政や地域とのつながりは重要。
- ・外国人による地域コミュニティや、地域住民と外国人が共に活動する地域コミュニティを市が把握していない。
- ・外国人の市民活動意識を醸成することで、地域コミュニティを形成し、コミュニティに参画することが期待できる。
- ・コミュニティが形成されれば、外国人の市政への意見や要望を集約し、反映させることが期待できる。

事業の概要

■事業の目的

本市多文化共生社会の実現のため、市内在住外国人が繋がり、助け合い、地域社会と繋がることのできるコミュニティの形成を目指す。

本年度事業は、市内在住外国人が、市民活動を通じて地域で活躍し、コミュニティ形成の担い手となることを支援することを目的とする。

■事業内容

市民活動意欲のある市内在住外国人を掘り起こし、意欲の醸成、活動の発展を目的とした講座を開催、最後に各自行いたい市民活動などについて発表した。併せて、市民活動団体や関係者との交流会を開催し、参加者の市民活動の立ち上げを支援、他団体との協働、活動の発展につなげた。

開催期間：2020年10月31日～2020年12月12日（全4回）

参加者：延べ66名（内訳 外国人37名、日本人29名）

発表人数 6名

開催場所：松戸市内

Day 1 交流会 (外国人)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内在住外国人同士の交流の機会を創出。 ・コミュニティ形成意欲を醸成 ・活動意欲のある者を発掘する。
Day 2 講座①	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの役割と意義を紹介 ・集まる場所の作り方を紹介
Day 3 講座②	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人によるコミュニティ形成の事例紹介 ・コミュニティ形成方法を紹介 ・各参加者の行動計画を考えるワークショップ
Day 4 発表会・交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・講座参加者が「行いたい市民活動/形成したいコミュニティ」とその行動計画について発表。 ・市民活動団体主催者等（日本人）と交流



事業実施における工夫点・事業の成果等

■事業実施における工夫点

- ・ 本市在住外国人である国際交流員を中心に企画、運営をした。また、国際交流員はファシリテーターと参加者（外国人）の橋渡し役としても活躍した。コミュニティ形成や市民活動意識の醸成には当事者の意見が重要であったと感じた。
- ・ 初回に参加者が楽しむことができる交流会を開催した。外国人同士の交流と地域に対する愛着を醸成するワークショップを実施し、第2回目以降の講座参加につなげた。
- ・ 第2回は、「コミュニティがある方が幸せな人が多い」、自己実現にメリットがある等、参加者の視点で、コミュニティの役割や意義を紹介し、コミュニティの形成、市民活動意欲を醸成した。
- ・ 第3回は、コミュニティ形成を実現した主催者から先例事例を紹介した後、コミュニティ形成のために必要な行動を紹介した。
- ・ 第3回のワークショップで、自己分析を実施し、実現したいコミュニティについて考えた。
- ・ 第4回のワークショップにて、参加者が実現したいコミュニティと行動計画を検討し、既に市

民活動を行っている関係者の前で発表した。発表を行うことで、検討した案が更に具体化された。

- ・ 交流会で、市民活動を行っている関係者よりアドバイスをもらう場や、協働について検討する時間を設けた。

■事業の成果

講座参加者による市民活動団体が結成し、イベントの企画を開始した。市内在住外国人同士、市民活動団体主催者等（日本人）と交流、繋がりが生まれ、継続的に交流をしていることを確認した。意欲のある市内在住外国人と行政が交流を持つことができ、どんなコミュニティを作りたいか、行政や生活に関する意見を聴取できた。



今後の課題・（コロナ禍の状況を踏まえた）将来に向けての展望等

- ・ コミュニティ形成、市民活動支援の為に体制を強化する。（市民活動支援センターの多言語対応窓口開設、多言語情報提供）
- ・ 新たなコミュニティ形成を支援するため、講座や交流会の開催を継続する。
- ・ 地域住民との交流の機会の創出について検討する
- ・ 外国人へアンケートやヒアリングを実施し、社会参画が可能な地域づくりを検討する。
- ・ コロナ禍における交流事業の実施方法の検討が必要。



事業担当者のふりかえり

本事業を通じて、活動の意欲の高い市内在住外国人に対し、コミュニティ形成や市民活動を支援することができた。地域で交流活動を行いたい等の前向きな意見を聴取することができると共に、立ち上げたいコミュニティや市民活動の傾向についても把握することができた。また、本事業の参加者と市民活動団体関係者が交流を行ったことにより、双方の活動の更なる発展が期待できる。今後も主体的な活動外国人の地域での更なる活躍を後押しする多文化共生施策を実施することで、外国人を地域の活性化の担い手として期待したい。